



平成 30 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 田淵電機株式会社
代 表 者 名 取締役社長 貝方士 利浩
(コード番号 6624 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役 常務執行役員
経営管理本部統括 佐々野 雅雄
(電話番号 06-4807-3500)

特別損失(減損損失)の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 10 月 27 日に当期の業績予想を修正させて頂きましたが、経営改善策の一環として固定資産の減損損失を計上し、また、最近の国内太陽光発電市場の動向及び追加経営改善諸施策等も考慮し、業績予想を下記の通り更に修正することと致しましたので、お知らせ致します。

記

1. 特別損失の内容

減損損失

当第 3 四半期連結期間において、海外子会社の建物等の一部及び田淵電機株の共用資産等について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、18 億 4 百万円を特別損失として計上する見込であります。既に同様の趣旨にて当第 2 四半期連結累計期間で 22 億 5 百万円の損失損失を計上しているため、当第 3 四半期連結累計期間で合計 41 億 2 百万円の特別損失を計上する見込であります。

2. 業績予想の修正

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想の修正 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-------------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------------|-----------------|
| 前回発表予想 (A) (平成 29 年 10 月 27 日発表) | 百万円 28,300 | 百万円 △2,000 | 百万円 △2,100 | 百万円 △4,300 | 円 △106.39 |
| 今回修正予想 (B) | 27,500 | △3,900 | △4,000 | △7,800 | △192.99 |
| 増減額 (B - A) | △800 | △1,900 | △1,900 | △3,500 | — |
| 増減率 (%) | △2.8 | — | — | — | — |
| (参考) 前期連結実績 (平成 29 年 3 月期) | 26,156 | △3,333 | △3,415 | △5,782 | △143.07 |

<修正の理由>

下期の売上高は、アミューズメント用電源は大幅に増加したものの、国内太陽光発電市場においては、改正FIT法における手続きの問題により新規認定が停滞する状況が続いており、当社シェアが大きい低圧連系案件のみならず住宅案件や高圧連系案件等へ大きく影響しております。一方、北米市場においては、蓄電ハイブリッドの新規モデルの発売を開始しましたが、売上は本格化するに至りませんでした。また、利益面では競争激化による売価下落による総利益率の低下に加え、約15億円の棚卸評価損の計上等が主な利益低下要因であります。加えて上述の海外子会社の建物等の一部及び田淵電機㈱の共用資産等について、減損処理を行っております。

これらにより、通期の売上高は275億円、営業損失は39億円、経常損失は40億円、当期純損失は78億円となる見込です。

なお、為替レートは1ドル110円を前提としております。

3. 中期経営計画の策定

収益構造の改革と業績の回復を実現するために、これまで累次にわたり経営改善策の推進に取り組み、売上の下げ止まりや経費削減等に一定の成果をあげてまいりました。しかしながら、平成30年3月期の通期における連結決算が2期連続の赤字となることが見込まれる中、事業構造の抜本的な改革を推進するため、2018年度を新たなスタートとし、2022年度を目標年度とする新中期経営計画「MBP2022」を策定いたしました。

(1) 事業領域の再定義

先進のパワーエレクトロニクス技術を志向した「特徴あるデバイス」と「ひと味違うパワー・ソリューション」で、新たに車載事業を第3の柱と位置づけ、本格的な取り組みを開始するとともに、既存のエネルギー・ソリューション事業及び電源・デバイス事業についても、事業環境の変化に対応した取り組みを推進いたします。

①エネルギー・ソリューション事業

- i) 国内事業基盤の再構築（今後成長が見込まれる住宅用・蓄電システムへの重点化）
- ii) グローバル分散型電源（DER）市場へ展開
- iii) プラットフォーム化によるコスト力の強化

②電源・デバイス事業

- i) 民生用・産業用・車載用トランス・コイルの着実な拡大
- ii) アミューズメント用電源で培ったPDIC応用製品への新展開

③車載事業

- i) 太陽光発電で培った独自のパワーエレクトロニクス技術を活かし、車載機器やワイヤレス給電機器等の車載関連事業に本格参入

(2) 顧客志向の徹底による事業推進

お客様に密着し、さまざまなニーズに誠実に向き合い、ご利用の現場で真にご評価して頂ける製品の企画・開発・生産・販売・アフターサービスに、全社一体となって取り組みます。

以 上